

県下の交通事故 (8月23日現在)

区分	事故件数	死者	傷者
54年	2,411件	55人	3,236人
53年	2,478件	76人	3,355人
比較	-2.7%	-27.6%	-3.5%



第45号

発行所

甲府市丸の内一丁目6-1
財団法人山梨県交通安全協会
TEL 甲府 (0552) 37-7827

安全のために
●割り込みの得な運転
●相手の車の前方へ無理をして割り込んでくることもしばしば経験することである。
その多くは右折左折、あるいは駐車車両がいるとか前方に、とくに流れよりおそく走る車がいるなどというところが原因であるが、このようにときに、ほぼ並んでいた車が自分の前方へ急に割り込みをかけてくると、正直いって、だれでも、「いやなやつだ」という感じを持つのは当然だと思う。しかし、ここで割り込ませないように頑張った方が得なのか、すんなり割り込ませた方が得なのかをよく考えて行動するのが、損をしない運転の基本なのである。実は、プロドライバーた

ちとこのような場合の対処の仕方について検討したのであるが、初めは「どんどん割り込まれて走れたものではない」とか、「そんなマナーの悪いやつはこらしめてやらなければ」等々の意見がほとんどであった。しかし、そのような気分的な問題、社会正義、エチケット、モラル等の見地からではな

●割り込みの得な運転
●相手の車の前方へ無理をして割り込んでくることもしばしば経験することである。
その多くは右折左折、あるいは駐車車両がいるとか前方に、とくに流れよりおそく走る車がいるなどというところが原因であるが、このようにときに、ほぼ並んでいた車が自分の前方へ急に割り込みをかけてくると、正直いって、だれでも、「いやなやつだ」という感じを持つのは当然だと思う。しかし、ここで割り込ませないように頑張った方が得なのか、すんなり割り込ませた方が得なのかをよく考えて行動するのが、損をしない運転の基本なのである。実は、プロドライバーた



安全を茶の間でつくる話し合い

く、自分が損をしないためには割り込ませた方が得か、頑張るべきかを考えようというところになって、実験をするに決めたのである。このように実験をみんなやってみよう、と、どうも面子にこだわって頑張るのはむしろ損ではないかということになって、だんだん皆の意見が「名を

得な運転と損な運転 (5)

東京大学名誉教授 平尾 収

を心もち大きくして誘いをかけると、間髪を入れずにサッとそこへ割り込んでくるということになるのである。割り込みをかけたから、シブシブ入れてやるのと、一瞬早く誘いをかけて入れてやるのでは、運転のゆとりには大きな差があるし、また、気分的には天地の差

●追い越させるときの得な運転法
流れに従って走っている、後から車間距離を極端につめてきて、スキあらば追い越そうと右往左往する車に追いつかれることがある。このようにときに一寸考えると、その車に抜かれたら損をするという気がしてなるべく抜かれないように前車との間隔をつめたり、進路を右寄りにとったりしたくなるものである。このようにして抜かれないように頑張っている、後続車に気が配っている、うしろに車が停つてこれに追突した、追突はしないまでもそのうち一寸したスキに左か

●追い越させるときの得な運転法
流れに従って走っている、後から車間距離を極端につめてきて、スキあらば追い越そうと右往左往する車に追いつかれることがある。このようにときに一寸考えると、その車に抜かれたら損をするという気がしてなるべく抜かれないように前車との間隔をつめたり、進路を右寄りにとったりしたくなるものである。このようにして抜かれないように頑張っている、後続車に気が配っている、うしろに車が停つてこれに追突した、追突はしないまでもそのうち一寸したスキに左か

●子ども・老人を重点に
秋の全国交通安全運動は、九月二十一日から三十日まで十日間、全国一斉に実施されます。本県でも、県交通安全対策本部をはじめ関係機関や団体が協議した結果、運動の重点を①子どもと老人の事故防止②自転車及び原付自転車の安全利用の促進③安全運転の確保とシートベルト着用④夜間における交通事故防止及び飲酒運転の削減とし、この四本の柱を中心に県民総ぐるみの運動を展開することになりました。実施要綱のおもな点は次のとおりです。

●子どもと老人の事故防止
この時の死亡事故の特徴は、交通弱者の死者が増加していることです。八月二十日現在の死者五十四人のうち、老人十六人、子ども六人、計二十二人で、子どもと老人が全死者の四〇・七％を占めています。そのなかでも、歩行中と自転車

自転車の事故防止

●子どもと老人の事故防止
この時の死亡事故の特徴は、交通弱者の死者が増加していることです。八月二十日現在の死者五十四人のうち、老人十六人、子ども六人、計二十二人で、子どもと老人が全死者の四〇・七％を占めています。そのなかでも、歩行中と自転車

秋の全国交通安全運動

9月21日から10日間

●子どもと老人の事故防止
この時の死亡事故の特徴は、交通弱者の死者が増加していることです。八月二十日現在の死者五十四人のうち、老人十六人、子ども六人、計二十二人で、子どもと老人が全死者の四〇・七％を占めています。そのなかでも、歩行中と自転車

●子どもと老人の事故防止
この時の死亡事故の特徴は、交通弱者の死者が増加していることです。八月二十日現在の死者五十四人のうち、老人十六人、子ども六人、計二十二人で、子どもと老人が全死者の四〇・七％を占めています。そのなかでも、歩行中と自転車

●子どもと老人の事故防止
この時の死亡事故の特徴は、交通弱者の死者が増加していることです。八月二十日現在の死者五十四人のうち、老人十六人、子ども六人、計二十二人で、子どもと老人が全死者の四〇・七％を占めています。そのなかでも、歩行中と自転車

●子どもと老人の事故防止
この時の死亡事故の特徴は、交通弱者の死者が増加していることです。八月二十日現在の死者五十四人のうち、老人十六人、子ども六人、計二十二人で、子どもと老人が全死者の四〇・七％を占めています。そのなかでも、歩行中と自転車

交通違反の種類	点数
酒酔い運転	15
麻薬等運転	15
無免許運転	8
酒気帯び運転	6
過労運転	6
速度違反(25キロ以上超過)	6
過積載(10割以上超過)	2
共同暴走行為	9
高速道路でのガス欠等	2
高速道路での故障車両表示義務違反	1
高速道路での自動二輪車2人乗り	1
無車検、無保険車運転	6
道路の車庫利用	2
青空駐車	1

新しい交通違反の点数
道路交通法の改正により違反行為の点数が引き上げられたり、また、新しく設けられたものもあります。新しい違反行為の点数は次の表のとおりです。

安全運転の確保とシートベルト着用
秋の交通安全運動の機会にはさらに強力な街頭監視活動を通じて、自転車の正しい乗り方を指導していくことになっていきます。また、最近のバイクブームで、原付自転車利用者の増加とともに、事故の方も増えています。事故のなかから、技能講習の充実、ヘルメットの着用励行、無保険車の解消等の運動がすすめられます。



交通ルールを守って安全運転を

●子どもと老人の事故防止
この時の死亡事故の特徴は、交通弱者の死者が増加していることです。八月二十日現在の死者五十四人のうち、老人十六人、子ども六人、計二十二人で、子どもと老人が全死者の四〇・七％を占めています。そのなかでも、歩行中と自転車

●子どもと老人の事故防止
この時の死亡事故の特徴は、交通弱者の死者が増加していることです。八月二十日現在の死者五十四人のうち、老人十六人、子ども六人、計二十二人で、子どもと老人が全死者の四〇・七％を占めています。そのなかでも、歩行中と自転車

●子どもと老人の事故防止
この時の死亡事故の特徴は、交通弱者の死者が増加していることです。八月二十日現在の死者五十四人のうち、老人十六人、子ども六人、計二十二人で、子どもと老人が全死者の四〇・七％を占めています。そのなかでも、歩行中と自転車

交通社会人になれ
「上手な運転者たるよりも、優秀な交通社会人たれ」ということが「交通社会人」ということである。調されている。運転者は、自動車運転者や歩行者に対して、交通社会人としての社会的責任を果たさなければならぬのである。交通社会人とは、他の運転者や歩行者の持っている権利を尊重し、スポーツマン・シップで行動し、望ましい交通社会慣習を作ることである」と説明している。そして、この精神の教育方法は、一人の者が他の者の自由を侵害すれば、その人自身の自由も失われていくものである。二、運転免許は「特典」であるから乱用すべきものではない。乱用すれば、質の悪いものでも取り消される性質のものである。この二つのことを、十分に自覚させることだと述べている。そして、運転者はハンドルを握ったときは、交通社会人として最高のマナーを発揮すべきであることと強調している。こうした考えから「上手な運転者たるよりも、優秀な社会人たれ」ということを運転者教育のモットーとしているのである。要するに、自動車を運転する人は、他の交通している人が法律上当然持っているはずの権利を侵害したり、相手の迷惑になるようなことをしたり、相手に不快な感じを起させるような不道徳な行為をしてはならないという社会的責任を負っていることを、意味しているのである。「交通社会人」としての責任を果たす具体的な道徳は、転じて、それは、運転者の道徳にはかならない。「優秀な交通社会人」とは、まず「交通道徳」からい

交通安全三とも自転車全国大会

高根東小が九位入賞 内田選手は全国二位

子どもの自転車の安全運転推進と事故防止の願いをこめて、去る八月七、八の両日、東京体育館において全日本交通安全協会主催の「第十四回交通安全三とも自転車全国大会」が開催されました。

参加小学校は、各都道府県から出場した全国四十七チームで、日ごろの訓練の成果を競いあいました。山梨県からも、県大会で優勝した高根町立高根東小学校の六年生丸茂宏、三井君が出場してよく奮闘し、なみいる強豪チームを抜いて団体の部で全国第九位に入賞し、個人の部では、内田幹選手が学科テスト五百点、実技テスト(安全走行コース、技能走行コース)五百点をいずれも失点なしで通過して満点を獲得、全国第二位(一位と同時、時



団体入賞した高根東小チーム(賞状・賞品・メダルが授与された)

間差で惜しくも二位)の栄誉に輝きました。

本県出場チームの全国大会における記録としては、昭和四十八年にやはり高根東小学校チームが出場し、団体で八位に入賞し、内田幹選手が四位に入賞しているのに続き、二度目の入賞です。

会場では、応援に上京した浅川校長先生や、夏休み



全国二位の栄誉に輝く内田幹選手。銀メダルを授与された。

多くなつた黄信号無視

道交法豆辞典

最近、信号機のある交差点で、黄信号を無視して通行する車が非常に多いようです。

黄信号については、道路交法施行令第二条の信号意味欄一号で、「車両及び路面電車は、停止位置をこえて進行してはならない。ただし、黄色の灯火の信号が表示された時において、当該停止位置に近接しているため、安全に停止することができない場合は除く」と規定されていますが、運転者の多くがこの「ただし」書きを拡大解釈しているようです。

では、安全に停止することができない場合は、黄信号を無視して通行してはならないと、黄信号が青色の灯火に

交通安全年間スローガン募集

締め切りは九月三十日

全日本交通安全協会と毎日新聞社では、昭和五十五年使用の「交通安全年間スローガン」を次の要領で募集します。

募集期間
昭和五十四年八月二十日から九月三十日まで

募集部門
(一)一般からの募集
(二)運転者(同乗者を含む)に対するもの

重点目標①シートベルトの着用②交差点での一時停止



安全運動の行われるたびに、重点として取りあげられるものに「シートベルト着用」の推進があります。

シートベルトの着用率は依然として低く、徹底はまだだとして、徹底の意は二つあると思えます。

①は事故を起こさないこと②は起きても被害を軽減させることです。交通事故の死者を減少させることと、全世界で一番効果のある施策はシートベルトの着用、二にスピードの

止及び徐行③バイクの事故防止④子どもと老人の保護⑤その他

○歩行者、自転車乗用者その他に対するもの

重点目標①とび出しと道路あそびの防止②正しい横断③自転車の正しい乗り方と点検整備④その他(子どもからの募集)

自由

応募要領

一般の応募資格は年齢不問。普通はがきに一スローガン。自作、未発表のものに限る。住所、氏名、年令、職業を明記。枚数に制限なく、地域、職場ごとの応募を奨励する。

このものの応募資格は、小・中学生に限る。普通はがきに一スローガン。自作、未発表のものに限る。学校名、所在地、学年、氏名を明記。枚数に制限なく、学校単位の応募を奨励する。

送り先
東京中央郵便局私書箱三八号千一〇〇一九一毎日新聞社事業部「交通安全年間スローガン係」

発表
五十四年十二月一日

表彰式
五十五年一月第二十回交通安全国民運動中央大会の席上で行う。

新規購入 映画の紹介

山梨県交通安全協会では、新しく次の映画を購入しました。無料で貸し出します。ご利用ください。

一 交通安全は家庭から
16ミリ、カラー、25分、主婦向。

家庭には車を運転する人であれば、幼児からお年寄りまで各世代の人がいます。こうした家族の安全を心から願っている家庭の安全管理者の主婦を対象に、交通安全運動は家庭から、そこからさらに地域ぐるみへと、この連帯の中で行うことが大切だということを教えています。

上野原会長に土屋氏

上野原安協では、加藤和男会長が町長に就任し、辞任したに伴い、このほど新会長に副会長の土屋武夫氏を選任しました。

土屋新会長は、大野でア

市川交通安全協会 村松伸三

かどうかでありましょう。すでに、法的措置をとった国では、驚異的な成果をあげてはいることと、我が国では、まだ指導の域を脱せず、安全意識の向上を待つという程度ですが、ぼつぼつ段階的に一歩進め

抑制であるといわれています。シートベルトの効果は大きく、車に乗っている人の死傷防止に絶対必要であることは、いずれの国でも異論はないはずですが、問題は、法的強制力を持たせる

しかし、それも現在のよ

て、たとえ加罰制はなくても、一般的に義務化するよう、前に進ませ、将来は法的強制力を持たせる方向に進めようではないかと思

しかし、それも現在のよ



とと同様にマイナス一点の減点方式をとることです。罰金というような加罰制をとらなくても、これで相当の成果が期待できることはヘルメットの事例からしても自明の理であると信じ

て悲慘です。この映画は、そうした現実を強烈に訴え、ドライバーの無謀な運転への警鐘を鳴らしています。

三 忘れた交通安全
16ミリ、カラー、20分、小学生向。

小学校の中・高学年生になると、一応交通安全行動の知識は身につけています。しかし、それが習慣として形成されるまでには至っていません。この映画は、心理学の観点から、交通安全行動と習慣との関係を平易かつ明快に分析し、新しい交通安全の手段と方向を示しています。

四 闇夜にカラスの巻
一夜の安全運転
16ミリ、カラー、20分、運転者向。

夜間の交通事故の場合、その致死率は昼間に比べて三倍も高いことが明らかになっています。夜間の運転の危険性とこれに対応する安全運転について、八木治郎さんが解説しています。

五 ムーミンとこうつつあんぜん
16ミリ、カラー、15分、幼児向。

幼児の交通事故を防ぐために、基本的な交通安全の知識を身につけるよう親しみやすく、わかりやすく教えてくれます。

六 あなたへの警告
16ミリ、カラー、30分、運転者向。

この映画は、交通違反を反復し、安全教育を無視して遂に死亡事故を起こし、被害者の家族をめちゃめちゃにしたばかりでなく、自分の家族をも奈落のどん底におとし入れたことをドラマで描き、ドライバーにその違反の重大さを警告しています。

自転車の違反許しません

街頭で正しい乗り方を指導

悪質者は赤切符(検査) 違反者には黄切符(警告)

「たとえ交通弱者でも、デタラメ運転は手加減いたしません」と、甲府警察署では自転車の交通違反警告書をつくり、「悪質違反はヒシヒシ検査も」と、強い態度で取り締まりを始めました。甲府署管内は、県内では自転車の多いところ。これは甲府市内の交通渋滞から、手軽の自転車に乗り替えたものや、周辺の新興住宅地からの通勤、通学や、買物をする人が増えたためといわれています。これに伴い、勢い自転車の事故も多く、昨年中に百七十一件、死者二人、ケガ人百七十一人で、同署の交通事故のうち一七・一%を占めています。このほか、とくに母親などのマナーの悪さやルール違反

「た」と交通弱者でも、デタラメ運転は手加減いたしません」と、甲府警察署では自転車の交通違反警告書をつくり、「悪質違反はヒシヒシ検査も」と、強い態度で取り締まりを始めました。甲府署管内は、県内では自転車の多いところ。これは甲府市内の交通渋滞から、手軽の自転車に乗り替えたものや、周辺の新興住宅地からの通勤、通学や、買物をする人が増えたためといわれています。これに伴い、勢い自転車の事故も多く、昨年中に百七十一件、死者二人、ケガ人百七十一人で、同署の交通事故のうち一七・一%を占めています。このほか、とくに母親などのマナーの悪さやルール違反

「た」と交通弱者でも、デタラメ運転は手加減いたしません」と、甲府警察署では自転車の交通違反警告書をつくり、「悪質違反はヒシヒシ検査も」と、強い態度で取り締まりを始めました。甲府署管内は、県内では自転車の多いところ。これは甲府市内の交通渋滞から、手軽の自転車に乗り替えたものや、周辺の新興住宅地からの通勤、通学や、買物をする人が増えたためといわれています。これに伴い、勢い自転車の事故も多く、昨年中に百七十一件、死者二人、ケガ人百七十一人で、同署の交通事故のうち一七・一%を占めています。このほか、とくに母親などのマナーの悪さやルール違反

「た」と交通弱者でも、デタラメ運転は手加減いたしません」と、甲府警察署では自転車の交通違反警告書をつくり、「悪質違反はヒシヒシ検査も」と、強い態度で取り締まりを始めました。甲府署管内は、県内では自転車の多いところ。これは甲府市内の交通渋滞から、手軽の自転車に乗り替えたものや、周辺の新興住宅地からの通勤、通学や、買物をする人が増えたためといわれています。これに伴い、勢い自転車の事故も多く、昨年中に百七十一件、死者二人、ケガ人百七十一人で、同署の交通事故のうち一七・一%を占めています。このほか、とくに母親などのマナーの悪さやルール違反

「た」と交通弱者でも、デタラメ運転は手加減いたしません」と、甲府警察署では自転車の交通違反警告書をつくり、「悪質違反はヒシヒシ検査も」と、強い態度で取り締まりを始めました。甲府署管内は、県内では自転車の多いところ。これは甲府市内の交通渋滞から、手軽の自転車に乗り替えたものや、周辺の新興住宅地からの通勤、通学や、買物をする人が増えたためといわれています。これに伴い、勢い自転車の事故も多く、昨年中に百七十一件、死者二人、ケガ人百七十一人で、同署の交通事故のうち一七・一%を占めています。このほか、とくに母親などのマナーの悪さやルール違反

「た」と交通弱者でも、デタラメ運転は手加減いたしません」と、甲府警察署では自転車の交通違反警告書をつくり、「悪質違反はヒシヒシ検査も」と、強い態度で取り締まりを始めました。甲府署管内は、県内では自転車の多いところ。これは甲府市内の交通渋滞から、手軽の自転車に乗り替えたものや、周辺の新興住宅地からの通勤、通学や、買物をする人が増えたためといわれています。これに伴い、勢い自転車の事故も多く、昨年中に百七十一件、死者二人、ケガ人百七十一人で、同署の交通事故のうち一七・一%を占めています。このほか、とくに母親などのマナーの悪さやルール違反

「た」と交通弱者でも、デタラメ運転は手加減いたしません」と、甲府警察署では自転車の交通違反警告書をつくり、「悪質違反はヒシヒシ検査も」と、強い態度で取り締まりを始めました。甲府署管内は、県内では自転車の多いところ。これは甲府市内の交通渋滞から、手軽の自転車に乗り替えたものや、周辺の新興住宅地からの通勤、通学や、買物をする人が増えたためといわれています。これに伴い、勢い自転車の事故も多く、昨年中に百七十一件、死者二人、ケガ人百七十一人で、同署の交通事故のうち一七・一%を占めています。このほか、とくに母親などのマナーの悪さやルール違反

「た」と交通弱者でも、デタラメ運転は手加減いたしません」と、甲府警察署では自転車の交通違反警告書をつくり、「悪質違反はヒシヒシ検査も」と、強い態度で取り締まりを始めました。甲府署管内は、県内では自転車の多いところ。これは甲府市内の交通渋滞から、手軽の自転車に乗り替えたものや、周辺の新興住宅地からの通勤、通学や、買物をする人が増えたためといわれています。これに伴い、勢い自転車の事故も多く、昨年中に百七十一件、死者二人、ケガ人百七十一人で、同署の交通事故のうち一七・一%を占めています。このほか、とくに母親などのマナーの悪さやルール違反



「た」と交通弱者でも、デタラメ運転は手加減いたしません」と、甲府警察署では自転車の交通違反警告書をつくり、「悪質違反はヒシヒシ検査も」と、強い態度で取り締まりを始めました。甲府署管内は、県内では自転車の多いところ。これは甲府市内の交通渋滞から、手軽の自転車に乗り替えたものや、周辺の新興住宅地からの通勤、通学や、買物をする人が増えたためといわれています。これに伴い、勢い自転車の事故も多く、昨年中に百七十一件、死者二人、ケガ人百七十一人で、同署の交通事故のうち一七・一%を占めています。このほか、とくに母親などのマナーの悪さやルール違反

「た」と交通弱者でも、デタラメ運転は手加減いたしません」と、甲府警察署では自転車の交通違反警告書をつくり、「悪質違反はヒシヒシ検査も」と、強い態度で取り締まりを始めました。甲府署管内は、県内では自転車の多いところ。これは甲府市内の交通渋滞から、手軽の自転車に乗り替えたものや、周辺の新興住宅地からの通勤、通学や、買物をする人が増えたためといわれています。これに伴い、勢い自転車の事故も多く、昨年中に百七十一件、死者二人、ケガ人百七十一人で、同署の交通事故のうち一七・一%を占めています。このほか、とくに母親などのマナーの悪さやルール違反

「た」と交通弱者でも、デタラメ運転は手加減いたしません」と、甲府警察署では自転車の交通違反警告書をつくり、「悪質違反はヒシヒシ検査も」と、強い態度で取り締まりを始めました。甲府署管内は、県内では自転車の多いところ。これは甲府市内の交通渋滞から、手軽の自転車に乗り替えたものや、周辺の新興住宅地からの通勤、通学や、買物をする人が増えたためといわれています。これに伴い、勢い自転車の事故も多く、昨年中に百七十一件、死者二人、ケガ人百七十一人で、同署の交通事故のうち一七・一%を占めています。このほか、とくに母親などのマナーの悪さやルール違反

「た」と交通弱者でも、デタラメ運転は手加減いたしません」と、甲府警察署では自転車の交通違反警告書をつくり、「悪質違反はヒシヒシ検査も」と、強い態度で取り締まりを始めました。甲府署管内は、県内では自転車の多いところ。これは甲府市内の交通渋滞から、手軽の自転車に乗り替えたものや、周辺の新興住宅地からの通勤、通学や、買物をする人が増えたためといわれています。これに伴い、勢い自転車の事故も多く、昨年中に百七十一件、死者二人、ケガ人百七十一人で、同署の交通事故のうち一七・一%を占めています。このほか、とくに母親などのマナーの悪さやルール違反

「た」と交通弱者でも、デタラメ運転は手加減いたしません」と、甲府警察署では自転車の交通違反警告書をつくり、「悪質違反はヒシヒシ検査も」と、強い態度で取り締まりを始めました。甲府署管内は、県内では自転車の多いところ。これは甲府市内の交通渋滞から、手軽の自転車に乗り替えたものや、周辺の新興住宅地からの通勤、通学や、買物をする人が増えたためといわれています。これに伴い、勢い自転車の事故も多く、昨年中に百七十一件、死者二人、ケガ人百七十一人で、同署の交通事故のうち一七・一%を占めています。このほか、とくに母親などのマナーの悪さやルール違反

「た」と交通弱者でも、デタラメ運転は手加減いたしません」と、甲府警察署では自転車の交通違反警告書をつくり、「悪質違反はヒシヒシ検査も」と、強い態度で取り締まりを始めました。甲府署管内は、県内では自転車の多いところ。これは甲府市内の交通渋滞から、手軽の自転車に乗り替えたものや、周辺の新興住宅地からの通勤、通学や、買物をする人が増えたためといわれています。これに伴い、勢い自転車の事故も多く、昨年中に百七十一件、死者二人、ケガ人百七十一人で、同署の交通事故のうち一七・一%を占めています。このほか、とくに母親などのマナーの悪さやルール違反

「た」と交通弱者でも、デタラメ運転は手加減いたしません」と、甲府警察署では自転車の交通違反警告書をつくり、「悪質違反はヒシヒシ検査も」と、強い態度で取り締まりを始めました。甲府署管内は、県内では自転車の多いところ。これは甲府市内の交通渋滞から、手軽の自転車に乗り替えたものや、周辺の新興住宅地からの通勤、通学や、買物をする人が増えたためといわれています。これに伴い、勢い自転車の事故も多く、昨年中に百七十一件、死者二人、ケガ人百七十一人で、同署の交通事故のうち一七・一%を占めています。このほか、とくに母親などのマナーの悪さやルール違反

明治以降の交通のあゆみ

明治期の花形“人力車”

日本人のつくった流行の乗物

江戸時代、陸上の主要な交通機関は馬と駕籠でした。宿場には、馬子や駕籠かきがいち、客待ちをしていました。中には諸国流浪の者が多く、雲助と呼ばれていました。明治には、その駕籠にとってかわったのが人力車です。この人力車は日本人のつくった唯一の乗物でした。その発明者は明らかでないが、最初に営業を官許されたのは和泉屋助という人でありました。和泉屋助は筑前の生まれで、東京で外国から輸入された馬車を見て、馬力に比べて人力で引けばさらに便利であると思いつき、明治二年に初めて人力車を発明しました。

本県では、明治四年に甲府三日町油屋文助方に初登場し、貸車として営業をはじめました。明治三十年には甲府の柳町に精力舎、錦町に錦生舎という人力車の会社設立され、十数台の人力車と車夫が客の求めによりいつでも出動できる体制でたむろするようになり、現在のハイヤー会社の前身となりました。この年の交通調査で、甲府練橋一時的の通行量は、人力車十七台、荷車八台、自転車一台と記録され、人力車の乗客は「官員らしきもの最も多し」として記されています。本県最高時の人力車は九百九十九台、鞍子七百八十八人、営業者四百七十八人に達しました。

料金を請求する車夫や、乗車を強要する車夫も現れ、警察では「取締規則」を制定して取り締まりに当たりました。本県でも、鞍子は十八歳以上の男子、服装は法被、股引、笠帽子とし、類冠り、股引、笠帽子、往來に駐車すること、小学生通学時の通行を禁止しました。現在の駐車禁止とスクリーンゾーンの規制のはじめです。着物時代の当時のことですから、こうした乗物を運ぶための服装まで規制したのと思われ、自人力車に乗るときは注意事項として「袴若しくは股引の類を着せしめて乗車することを得ず」としたのもこのころのことです。

問題の人力車の料金については、明治三十三年に、甲府より松島、右左間十五銭、夜は十七銭、待合一時四銭以内と定められています。いすれにしても、人力車の出現は大いにうけ、その台数もつき上り増加し、明治三十年には全国で二十万台に達しましたが、三十二年ころをピークにだんだん減り、自転車、自動車の出現によって、大正十二年の関東大震災以後は、急速にその姿を消しました。

横断歩道の歴史を調べてみますと、大正時代の後半から、歩行者の横断場所の指定として実施されていたようです。大正九年に、東京の大平警察署(今の本所警察署)の署長さんのアイデアで「電車横断線」という白色の二本線をひいた

のが横断歩道のはじまりといわれています。当時は、自動車よりも荷車や市電がはばかされてきた時代ですが、歩行者の方もまだまだ安全意識が低く、電車の線路を自由勝手に横断していたので、電車や電車のかけの自動車にひ



加害者も“被害者”だ

交通事故は毎日くり返されている

「事故を起こせば大変だ」ということは、誰でも知っています。だが、実際に過ちがちな自分も、利用者の取り締まりを強化することにしています。

ひとたび交通事故を起こせば、刑事上の責任、行政上の責任、民事上の責任という三つの責任を負わされます。その中でもとくに民事上の責任、即ち被害者に對する損害賠償責任が大変な額になってきており、これは先ごろあった労災の事例ですが、三十九歳で年収二百七十万円の工員が作業中両眼失明という災害を受け、会社を相手に損害賠償請求の提訴をしました。その請求は、逸失利益の算定に、将来予想されるペースアップにスライドさせる方式で、損害額を算定し、逸失利益、看護料、慰謝料等総額一億三千八百万円余りとなりました。

これに対し、横浜地裁では、この方式の算定を認め約七千六百万円の賠償支払いを会社に命じた判決を言い渡しました。

県下一の広いコースで 早い上達を！
伝統ある当校で 1日も早く 免許証をあなたの手へ
近代的設備を誇る山梨自動車学校
財団法人山梨県交通安全協会経営
公認 山梨自動車学校
八田村野島1828 山梨県運転免許センター内
TEL 05528-5-0752

一億円賠償時代

どうして責任を果たすか

交通事故の場合の損害賠償額算定も、同じ方式で計算されるものと思えます。被害者の給与が高いときは、もともと高額の賠償になることとしよう。

あせりの暴走や、一秒か二秒のちよつとした油断から誤って事故を起こした場合は、億に近い金額の賠償を要求される危険は、車を運転する人達の身近なところにあるのです。万一、あなたに事故が起きたら、このような賠償請求を受けたら、どのようにしてその責任を果しますか、考えて見てください。

事故による被害者の苦悩も一生運です。加害者の苦悩もまた一生運です。まさに、加害者も被害者の時代です。お互いに事故を起こさないという保証はここにもありません。もともと真剣に考え、安全運転に努めよう。

折角の横断歩道があつても、それを利用する歩行者やドライバーが、ルールに従わなかったら、仏つって魂入れず、なつてしま